

連載

マイナ保険証の“失態”を追う

～このまま見過すことはできません～

経済ジャーナリスト

荻原 博子

第7回 驚愕する日本の医療の“デジタル化”!!

経済ジャーナリスト・荻原博子さんによる連載「マイナ保険証の失態を追う」このまま見過すことはできません。運用開始以降、全国でトラブルが相次ぐ「マイナ保険証」をテーマに、経済分野の専門家の視点からマイナンバーカード問題の根幹にあるものや、その行く末についてご執筆いただく。今回は7回目。

日本の医療には「デジタル化」が必要と言われています。

私も含めて、これに異議を唱える人はいないと思いますが、問題は「どんなデジタル化」で、どれだけ世の中が便利になるか」ということです。

厚生労働省は、新型コロナウイルス対応でさまざまなデジタルシステムを立ち上げました。感染症情報としては「ハリス(HER-SYS)」「ネッド(NESID)」「コリア(COCCA)」があります。ワクチン情報では「ブイシス(V-SYS)」、ワクチン摂取記録システムでは「VRS」。医療情報では「ジミス(G-MIS)」「イーミス(E-MIS)」。

ところが、役に立たないものが多かった。中でも新型コロナウイルス接触確認アプリの「ココア」は、ダウンロード数約4千万件なのに、致命的な不具合が発生していたにもかかわらず4カ月も放置されていたというお粗末さ。税金をドブに捨てて終わりました。

なぜ「FHS」となく

「ハリス」だったのか

「ココア」よりもひどかったのは、



profile

荻原 博子(おぎわら・ひろこ) / 経済ジャーナリスト。家計に根ざした視点で経済を語る。バブル崩壊直後からデフレの長期化を予想し、現金に徹した資産防衛、家計運営を提唱し続けている。新聞・経済誌などに連載。新聞、雑誌等の連載やテレビのコメンテーターとしても活躍中。近書に「マイナ保険証の罠」(文春新書)、「マイナンバーカードの大問題」(宝島社新書)など。

医師が患者情報を入力する「ハリス」。入力項目が120〜130もあり、入力だけで1人あたり30分もかかります。コロナ診療でヘトヘトになった医師が、診療後にこれを入力すると明け方近くになってしまい、「ハリス地獄」と呼ばれました。

ところが、もっと驚いたのは、実は厚生労働省は10年もの歳月を費やしてコロナ前から「症例情報迅速集積システム(FHHS)」という、「ハリス」同様のシステムを既に研究・開発していました。しかも「ハリス」だと30分かかると入力、FHSならわずか1分。

「FHS」を開発した北見工業大学の奥村貴史教授は、「自治体が使いやすいよう意見交換を重ねて設計していたのに、政府は過去の教訓を生かさず、ハリスを導入した」と言っています。「ハリス」開発の陣頭指揮をとった当時の橋本岳厚生労働副大臣も、「FHSに必要な機能が備わっている」と担当から説明を受けていれば、採用していたかもしれない」とのこと。

しかも、「ハリス」では膨大なデータが集められたのに、それがどう活用されたのかもわからない。一方、「FHS」は北海道が導入し、クラスター(感染者集団)が発生した地域への医師派遣などに役立てていて、道の感染症対策担当者は「ハリスではなく、最初からFHSが使われていれば、保健所や自治体の負担は少なくて済んだろう」と話しています。

東京の歯科医院に

北海道から通う患者はほぼゼロ

何のためにデータを集め、集めたデータをどう活用するのかという利用者の視点が抜け落ちた「デジタル化」など、百害あって一利なし。

その怖さです。そもそも、歯科診療所にやってくる患者さんは近隣の人。東京の歯科診療所に、北海道や九州から歯の治療に通うというケースはほとんど考えられない。それよりも、全国的なネットワークにすることで、脆弱な接続箇所から悪質なコンピュータウイルスが入り込むことのほうが怖い。そうなったら、前回書きましたが、病院は治療もできずにお手上げです。

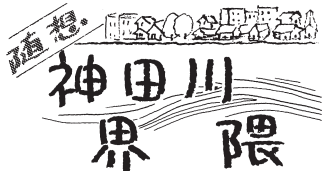
マイナンバーで見られる医療情報は、ほとんどがレセプト情報。検査をしたことはわかっても、検査の結果はわからない。しかも、1〜3カ月前の古い情報なので、これを見て診療され

と受け取るのではないだろうか。ウクライナは8月6日にロシアへ越境攻撃し、クルスク州を占拠した。いずれ北部3州の占拠を目指しているという。米国製最新鋭戦闘機「F16」の供与も始まっている。私は、これまではロシアが戦術核兵器使用をちらつかせつつ、一方的な大国主義的侵略を進めることにに対し、強く反対してきた。しかし、今の事態を見ていると、劣勢に立たされ、ロシアと同じく欧米諸国などからの経済制裁で苦しんでいる中国、北朝鮮、イラン、およびアフリカと中南米の多くのシンパ

て何とか一発逆転したいのでしょう。ただ、それが「医療DX」で、しかも多くの企業もこれに接続するというのは、あまりに危険と言わざるを得ません。失敗続きの日本の「デジタル化」に、私たちはどこまで付き合わされるのでしょうか。



本連載を
Webで読む



米国徴兵制の現状と世界情勢

— 我が国、歯科医師そして協会の真の役割

藤野 健正

(監事/渋谷区)



当協会設立の原点は、国民皆保険制度を守り充実させることにより、いかに質の高い歯科医療を国民に提供できるようにするかということ、医療従事者が安心して医療活動を継続できるようにすることである。

米国の現状は、いわゆる徴兵制ではなく「選抜徴兵登録制度」(Selective Service System)で、18〜25歳までの男性がこの制度への登録が義務付けられており、女性もその対象になるとのことである。しかし、これは見方を

と受けるのではないかと心配している。ウクライナは8月6日にロシアへ越境攻撃し、クルスク州を占拠した。いずれ北部3州の占拠を目指しているという。米国製最新鋭戦闘機「F16」の供与も始まっている。私は、これまではロシアが戦術核兵器使用をちらつかせつつ、一方的な大国主義的侵略を進めることにに対し、強く反対してきた。しかし、今の事態を見ていると、劣勢に立たされ、ロシアと同じく欧米諸国などからの経済制裁で苦しんでいる中国、北朝鮮、イラン、およびアフリカと中南米の多くのシンパ



1分動画

忙しい先生でも、堅実な備えを
わかる休業保障・保険医年金

コスパ抜群!

休業対策は「休業保障」



安定運用が魅力!

資産形成は「保険医年金」

NISAと保険医年金の
違いを更にわかりやすく資料希望は
こちらから